

【教員氏名】

永水 裕子
研究室:聖アンデレ館 8 階 823 号室
メールアドレス:nagamizu@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義

【講義・演習概要】

科学技術・医療技術の発展により、今までは不可能だったことが可能となり、例えば、自然の状態では子どものできないカップルが、生殖補助医療技術により子をもうけることも可能となった。しかし、技術的には可能なことであっても、当事者の人権や尊厳を侵害していないか、かきりに侵害していないとしても、本当にそのような技術を利用することが倫理的に適切なのかというジレンマが生ずることがある。この講義では、このような問題について取り上げ、受講生自らに考えてもらうことにより、様々な問題に対して、皆さんが、マスコミが作り出すイメージや感情論から独立して自らの意見を形成できるように材料を提供していく。

【学習目標】

この講義で扱うテーマには、絶対的な正解はない。従って、答えを覚えようという作業は全く意味を成さない。生命倫理の観点から対立のある問題については、とにかく自らの頭で考え続けて自分なりの結論を導き出すしかない。感情論ではなく、受講生が、自分の頭で色々な観点から考えた上で自分の意見を形成できるようになるのが目標である。また、医療事故や薬害が発生する構造的問題についても考えてほしい。ただし、優しい気持ちを失わずに・・・ということも目標の一つである。

【講義計画】

- 第 1 回: イントロダクション－患者の権利
- 第 2 回: 医療訴訟・医療安全管理
- 第 3 回: 医療情報とプライバシー
- 第 4 回: 生殖補助医療をめぐる諸問題
- 第 5 回: 生命誕生の場面における選択 (出生前診断、着床前診断等)
- 第 6 回: 重症新生児の治療をめぐる問題
- 第 7 回: 終末期医療をめぐる問題 (1)
- 第 8 回: 終末期医療をめぐる問題 (2)
- 第 9 回: 再生医療をめぐる問題
- 第 10 回: 臓器移植に関する問題
- 第 11 回: 薬をめぐる規制－薬害を中心に
- 第 12 回: 医学研究に関する問題
- 第 13 回: 遺伝子をめぐらる問題
- 第 14 回: 人体および死因究明に関する問題
- 第 15 回: まとめ

【成績評価の方法】

試験評価:100% レポート:0% 出席:0%
期末試験のほか、講義の最後に意見を書いてもらうことがあり、加点事由として考慮している。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

宇都木伸・塚本泰司編『現代医療のスペクトル』(尚学社)
手嶋豊『医事法入門第 4 版』(有斐閣)
甲斐克則編『レクチャー生命倫理と法』(法律文化社)
久々湊晴夫＝旗手俊彦編『はじめての医事法 第2版』(成文堂)
甲斐克則編『ブリッジブック医事法』(信山社)

【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】

講義で得た知識をさらに発展させるために、講義の際に示した当該項目に関する参考文献を読むこと。家族や友人との議論も行うとなおよい。また、講義についていくために、上記参考文献のいずれか、あるいは自分で選んだ本の中の該当箇所を事前に読んで予習すること。

【その他備考(担当教員用)】

【備考(管理者用)】